

だんだん

vol. 2016. 1

「だんだん」とは、西日本の一部地方の方言で「ありがとう」という意味です。のんびりした暮らしを連想させるこの言葉を、活動のテーマにしています。

こんにちは、社協NT中央南支部です。

支え合える地域をめざし、住民どうしの交流を広げ、深める活動をしています。

講演会のお知らせ

今日から始める財産、身の整理

3月19日(土) 10:00～12:00

サザンプラザ 多目的室

話し手／司法書士 吉益 千絵

(原山1丁目 よします司法書士事務所)

サザンプラザ 谷 道子

(現在3度目の親族後見中)

参加無料・申込み不要

財産の整理と管理、ペットなど身の整理、遺言、相続、後見人、尊厳死……備えは万全ですか？

夫が、妻が、家族が、突然たおれて意識をなくしたら……。事例をもとに、いざという時にそなえる暮らしの整理を考えてみましょう。

ケース① 70歳の夫と68歳の妻の二人暮らし、子どもがなく、妻にはすでに身寄りがない。

夫が突然倒れて意識不明に。妻の今後は…。

ケース② 85歳の義母、60歳の嫁の二人暮らし。

嫁は認知症の義母を長年面倒みているが…。

ケース③ 伯母、父母の成年後見をして(谷道子)

今年もやりました！

秋の集い バスハイクの旅

恒例の秋のバスハイク、今年度は「房総もみじロード」。約50名の参加者は南房総を目指して出発、富津市の「ソムリエハウス酒匠の館」を見学・試飲、志駒川溪谷もみじロードを観光、保田食堂で昼食後は鋸山ロープウェイを楽しんで帰路につきました。今秋のバスハイクもどうぞお楽しみに！



年末恒例 だんだんの集い

22回目となりました、年末恒例の「だんだんの集い」。12月5日、原山中学校生徒会と共催で開かれました。地域の高齢者、有志参加の中学生、日本舞踊を披露してくださった藤間宗園社中の皆さん、調理等の地域ボランティアなど総勢150名が集い、交流しました。戦後70年の節目の年、各テーブルでは戦争体験が語られていました。



この地域の高齢化にそなえて

——印西市高齢福祉課、地域包括支援センターと意見・情報交換——

NT中央南地区の高齢化率

当支部の活動エリア（高花小、原山小、内野小の学区内）でも、着実に高齢化が進んでいます。一人暮らし、高齢者のみの二人暮らしという世帯が多い地域柄、これから住民どうしの支え合いの体制をどのようにつくっていくか、市の高齢者福祉課からの呼びかけで、情報交換の会がもたれました。

まず、地区ごとの高齢化率（グラフ）や自主活動の状況、これから高齢者福祉政策の説明を受けたあと、ざっくばらんな話し合いとなりました。支部メンバーからの主な意見です。

- 買い物に困る高齢者が少しずつ増えている。
- 宅配のサービスをつかっている人もいるが、自分で選びたいという人も多い。
- 車の運転に不安のある人は確実に増えていく。安心な送迎ボランティアの仕組みを考えてほしい。
- 介護保険外の生活支援として、「ゆうゆうサービス」や「ワンコインサービス」に期待していたが、実態として利用がほとんどない。なぜ利用されないのか検証すべきだ。
- ワンコインサービスは、本部で扱うのではなく、

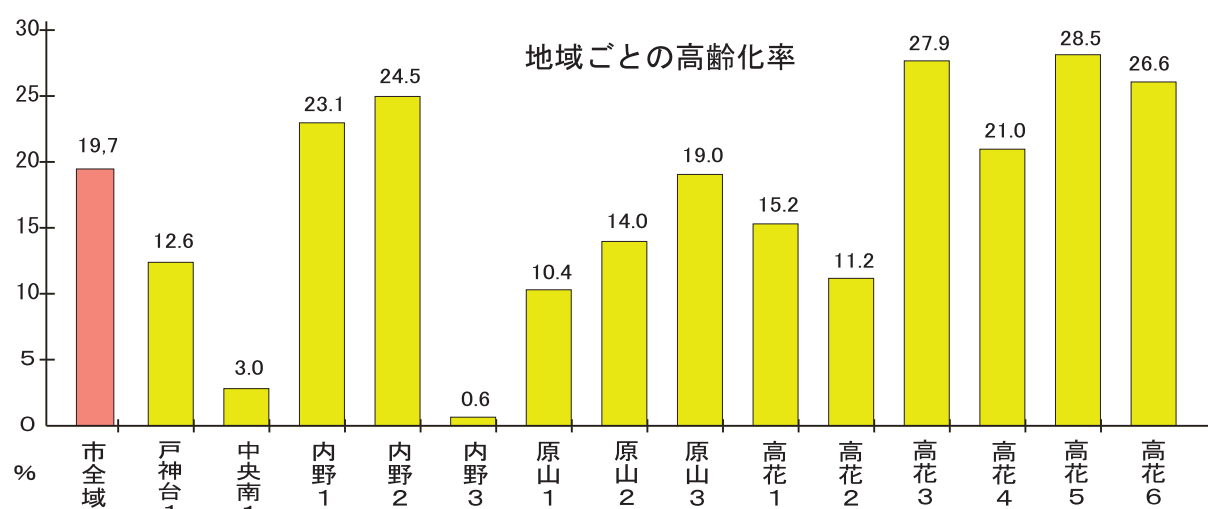
支部ごとに運営したほうがいい。顔見知りの人が来てくれる安心感がないと使いづらい。

- 部分的に関わるボランティアはいても、事業の中心になってくれるボランティアが増えない。
- 支援側のボランティアが増えない。
- ボランティアは将来の自分のためにやりたい。施設に優先入所できる等の特典を約束しては。
- 市民のボランティア精神に応える市の体制をつくってほしい。そうならないように感じる。

地域に福祉の拠点を

意見交換をしても、すぐに解決策が示されるものではありません。支え合いの仕組みをつくっていくのは私たち住民自身です。市にもしっかり認識をもってもらった上で、これから住民と市と共同作業で、生活支援や地域での見守りの仕組みづくりを進めていく必要があります。

まずは、地域に「福祉活動の拠点を」ことを要望しました。地域にボランティアが集う場所をつくることで、人のつながりが生まれていくことでしょう。



自主活動
地域の主な

- おしゃべりサロン
- ローレルスクエアお茶会
- 戸神青空会など、各地域では高齢者クラブも活動しています。

- 健康教室サロン
- 健康教室健康ちよきん運動
- コロネード和の会
- コロネード健康ちよきん運動
- あいあい茶話会
- 蒔蒔の会健康ちよきん運動

- 茜会サロン

問合せ・連絡先

内野／志賀泰次郎 46－5825
原山／小関ミツ子 37－7237

高花／山下順三 46－6896
戸神台／野中文代 46－4134